

新大分スタンダードに基づいた 授業改善

「めあて」「課題」の設定、「まとめ」「振り返り」の方法を見直してみませんか

竹田教育事務所

授業改善の視点

- ① 学習の見通しをもたせ、意欲を高める「めあて」
- ② 追究すべき事柄を明確にした「課題」
- ③ 児童生徒自身の言葉による「まとめ」
- ④ 学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる「振り返り」

新大分スタンダードのすすめ

「新大分スタンダード」で主体的・対話的で深い学びの実現を

「学びに向かう力」と「思考力・判断力・表現力」を育成する
ワンランク上の授業を目指して

1 1時間完結型

主体的な学びを促す「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」

- * 学習の見通しをもたせ、意欲を高める「めあて」
- * 学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる「振り返り」
- * 追究すべき事柄を明確にする「課題」、追究した結果を明確にする「まとめ」

2 板書の構造化

* 思考を整理したり促したりする板書、思考の過程を振り返ることができる板書

3 習熟の程度に応じた指導

- * 「具体的な評価規準」に基づく確かな見取り
- * 「努力を要する状況」の児童生徒に対する手立ての工夫



安心して学べる
「学びに向かう学習集団」

4 生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開

主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)を創造する学習展開

- * 各教科等の見方・考え方を働かせて展開する「課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現・交流→振り返り・評価」等の学習過程の繰り返しの中で行われる
・ 知識の関連付け、問題の発見・解決、情報を精査した考えの形成、思いや考えに基づく創造
・ 様々な人との対話・協働による自分の考えの深化・拡充

「新大分スタンダード」による授業改善は、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた「アクティブ・ラーニング」の視点による授業改善と重なります。

○ 主体的・対話的で深い学びについて、中央教育審議会答申(H28.12)には、「単元や題材のまとまりの中で、例えば主体的に学習を見通し振り返る場面をどこに設定するか、グループなどで対話する場面をどこに設定するか、学びの深まりを作り出すために、子供が考える場面と教員が教える場面をどのように組み立てるか、といった視点で実現されていくことが求められる」とあります。「新大分スタンダード」においても、単元や題材等を問題解決的な展開にするよう改善を求めています。

「新大分スタンダード」で目指す授業

- (1) 単元や題材の「ねらい」に即した「めあて」の設定では、児童生徒自身が学習の見通しをもち、意欲を高めることを重視しています。
- (2) 「めあて」に即した「振り返り」を設定することで、本時の学びの成果等を実感し、学んだこと等を次の学びにつなげるようになることを重視しています。
- (3) 主体的・対話的で深い学びを創造する学習展開では、知識の関連付け、問題の発見・解決、情報を精査した考えの形成、思いや考えに基づく創造などを実現することを重視しています。

学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

付けたい力

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創出し、目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために、資質・能力を育む

「社会に開かれた教育課程」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の推進

何を学ぶか

新大分スタンダード

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共」の
新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない※

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・
ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得
など、新しい時代に求められる
資質・能力を育成

知識の量を削減せず、質の高い
理解を図るための学習過程
の質的改善

主体的な学び
対話的な学び
深い学び

※高校教育については、些末な事実的知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。

新大分スタンダード

1時間完結型について

1時間完結型

めあて

単元(1単位時間)の学習の見通し、既習事項との比較

子どもが追究する対象を明確にする(例 ~するにはどうすればよいか)

課題

学習活動

学習形態 言語活動
発問の在り方 教材・教具の工夫 等

呼应関係

まとめ

(課題に対するよりよい考え)

呼应関係

振り返り

ノートに書く・話す、適用問題を解く。振り返らせる視点は教師のねらいに応じて(学習内容、学習活動、情意的なもの 等)

「目標達成に向けた組織的な授業改善」推進手引き」の考え方を活用し、「新大分スタンダード」の視点からの授業改善をPDCAサイクルにのせて組織的に進めましょう。

【授業づくりのポイント1】「めあて・課題・まとめ・振り返り」の適切な設定と板書の構造化

【めあて】 付けたい力を身に付けさせるための、本時で目指す「活動のゴールの姿」や「ゴールとそれまでの道筋」。単元や題材の「めあて」を提示することもある。

【課題】 その時間に解決すべき事柄。「なぜ～なのか」「～することはできるだろうか」「どうしたら～できるか」など、疑問形で示すことが多い。

【まとめ】 本時の課題に対する答え・結論に当たる。

【振り返り】 めあてに対する振り返り。学びの成果を実感させ、学んだことや意欲・問題意識等が次につながられるよう視点を設定することが望ましい。

*「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」の4つが毎時間の授業で必要だというわけではありません。提示の順序やタイミングも授業によって変化します。本時のねらい等に応じ、児童生徒の思考の流れがすっきりとなるよう設定することが重要です。

*板書については、「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」等を位置付けるとともに、ノートと一体化させ、何をどのように学んでいるか等を、児童生徒が常に振り返ることができるように心がけましょう。

① 学習の見通しをもたせ、意欲を高める「めあて」

算数(例)

三角形の面積について考えよう

改善点



活動のゴールの姿がわかるようにする

三角形の面積の求め方を友だちに説明しよう



- ・友だちに説明できるかを振り返る
- ・頂点が底辺上でない三角形についても同じように友だちに説明できるかを振り返る

① 学習の見通しをもたせ、意欲を高める「めあて」

国語(例)

論語について考えよう

改善点



活動のゴールの姿がわかるようにする

孔子の考えと自分の考えを比べよう



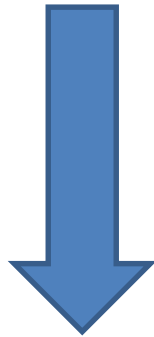
- ・孔子の考えと自分の考えの共通点、相違点について振り返る
- ・孔子の考えを、自分の生活と関連付けて振り返る

② 追究すべき事柄を明確にした「課題」

算数(例)

(二桁の数) ÷ (一桁の数) の計算は
どう計算したらよいか

改善点



子どもが何を解決すればよいの
か焦点化する

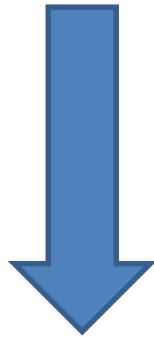
(二桁の数) ÷ (一桁の数) の計算は
どんな順序で計算したらよいか

② 追究すべき事柄を明確にした「課題」

国語(例)

三文字熟語はどんな構成になっているか

改善点



子どもが何を解決すればよいのか
か焦点化する

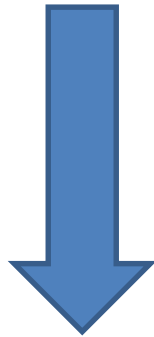
これらの三文字熟語は、どのような3つのグループ分けられるかな。

② 追究すべき事柄を明確にした「課題」

数学(例)

平方根の加法の計算をマスターする

改善点



子どもが何を解決すればよいのかわからない

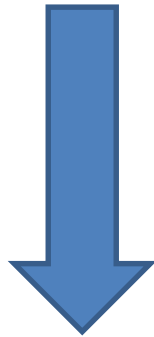
$\sqrt{2} + \sqrt{8} = 3\sqrt{2}$ になることを、どのように説明できるか。

② 追究すべき事柄を明確にした「課題」

社会(例)

世界恐慌とはどのようなことか。

改善点



子どもが何を解決すればよいのか
か焦点化する

世界恐慌は、世界にどのような影響
を与えたのか。

③ 児童生徒自身の言葉による「まとめ」

「まとめ」ポイント

- ① 「課題」に対する「まとめ」を、まずは、児童生徒自身の言葉で自分のノートに書かせる。
- ② 児童生徒の「まとめ」に修正が必要な場面では、児童生徒が自分で書いた「まとめ」は消させず、その下に書かせる。
※ 自分のまとめ ⇔ 先生のまとめ

「まとめ」の方法

- ① キーワード指定してまとめる
- ② 文の書き出しを指定してまとめる
- ③ 字数を制限して、まとめる など

小学校4年生 理科の(例)

めあて

とじこめた空気に力をくわえたときのようすを説明しよう。

課題

とじこめた空気に力をくわえたら、手応えが大きくなるのはなぜか。

まとめ

- ・空気をとじこめて力をくわえると、空気の体積は小さくなる。
- ・体積が小さくなると、もとに戻ろうとするため、手応えは大きくなる。

振り返り

とじこめた空気に力をくわえたときの様子
をかいた図や絵を説明することで、本時で
わかったことを振り返る。

小学校4年生 理科のまとめ(例)

①キーワードを指定してまとめる

まとめ

3つのキーワードで今日のまとめ
をかこう！

・空気 ・力 ・体積

- ・**空気**をとじこめて**力**をくわえると、**空気**の**体積**は小さくなる。
- ・**体積**が小さくなると、もとに戻ろうとするため、手応えは大きくなる。

小学校4年生 理科のまとめ(例)

②文の書き出しを指定してまとめる

まとめ

次の文書の書き出しで今日のまとめをかこう！

- ・空気をとじこめて力をくわえると、……
- ・体積が小さくなると、……

- ・**空気をとじこめて力をくわえると、**空気の体積は小さくなる。
- ・**体積が小さくなると、**もとに戻ろうとするため、手応えは大きくなる。

中学校3年生 理科の(例)

めあて

力が働いていないときの水平面を進む台車の運動について説明しよう。

課題

力が働いていないときの水平面を進む台車は、どのように進むと言えるか。

まとめ

- ・方向は、一直線(まっすぐ)に進む と言える
 - ・速さは、一定の速さで進む と言える
- ※このような運動を等速直線運動という(教師から)

振り返り

- ・日常の等速直線運動について考える
- ・台車が斜面を下るときの運動はどんな運動なのだろう(疑問)

中学校3年生 理科のまとめ(例)

①キーワードを指定してまとめる

まとめ

2つのキーワードで今日のまとめ
をかこう！

・方向 ・速さ

- ・**方向**は、一直線(まっすぐ)に進む
 - ・**速さ**は、一定の速さで進む
- ※このような運動を等速直線運動という

④ 学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる「振り返り」

「振り返り」の内容

- ・できるようになったこと、まだできないこと
 - ※設定した評価規準に対応する振り返り
- ・わかったこと、わからなかったこと
- ・気づいたこと
- ・今度調べてみたいこと
- ・既習事項との関連
- ・身の回りの事象や日常生活との関連

新大分スタンダード

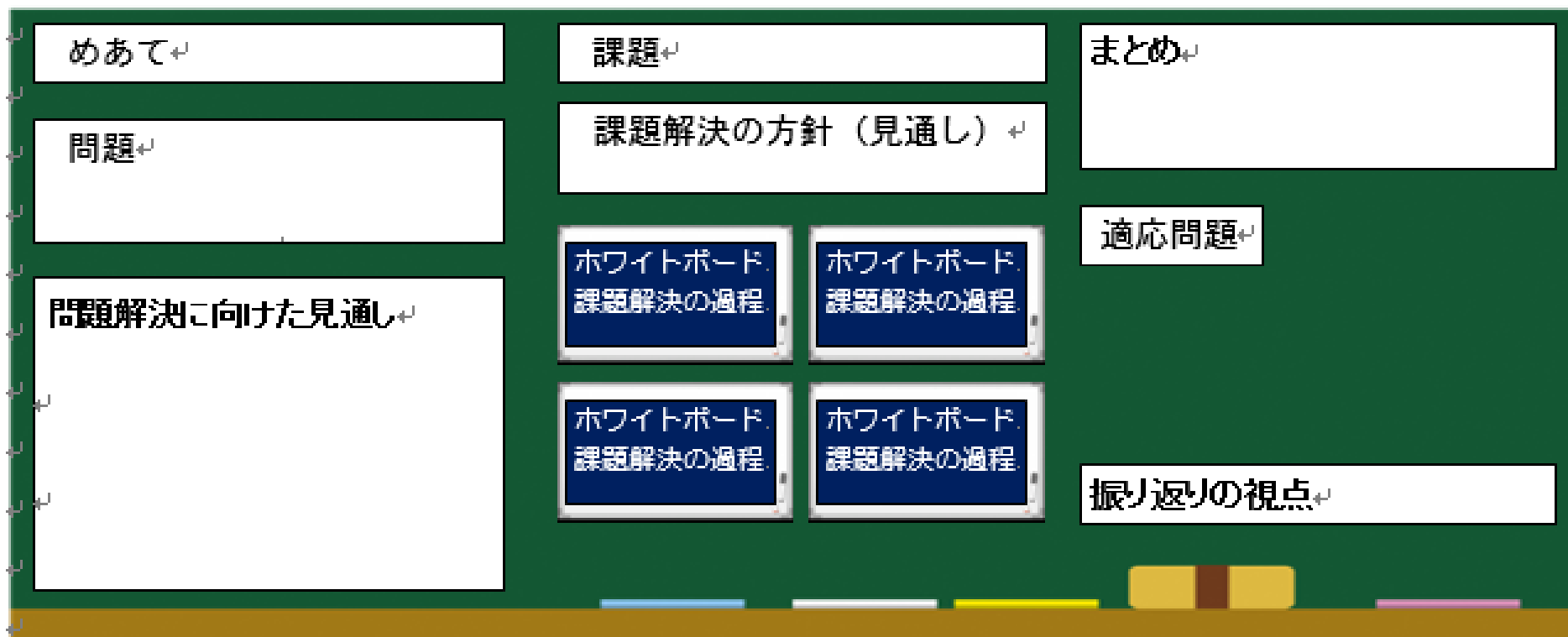
板書の構造化について

板書の構造化・板書とノートの一体化

- ① 思考を整理したり、促したりする板書
 - ② 思考の過程を振り返ることができる板書
 - ③ 児童生徒がノートにまとめやすい板書
(板書とノートの一体化)
- ※ ワークシートの整理やノート指導も大切！

新大分スタンダードに基づく授業改善

板書の構造化【中学校数学科板書例】



板書の構造化 例(算数)

城原小 衛藤 沢美 教諭

もんだい

タイルは何まいあるかな。



形(大きさ)同じ三角形のタイル

きれいに並んでいる。
横、縦の列にならんでいる。

かたんに、早くわかる方ほう

かだい

↓
どうしたら、タイルのまい数が調べられるだろうか。



タイル 8まい組み合わせた形
この形が 3こある?

1つ分の数

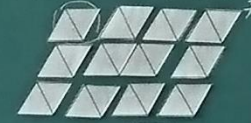
いくつ分

見通し

考え方を整理

(自分の考え)

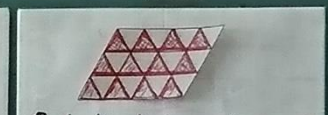
2まい組み合わせた形



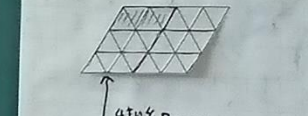
2x12



6まい組み合わせた形
 $6 \times 4 = 24$
答え 24まい



タイル 4まい組み合わせた形、それが6こ。つまり、(長さ) $4 \times 6 = 24$



4まい組み合わせた形
 $4 \times 6 = 24$



タイルを6まい組み合わせた形、この形が4こある。
 $6 \times 4 = 24$
(長さ) $4 \times 6 = 24$

まとめ

1つ分の数がいくつ分かで調べられる。(組み合わせた)

板書の構造化 例(理科)

新田小 諸見里 昌良 教諭

めあて 食べ物の通り道について調ぼう。

人などの動物は生きたくために、体の外から何をとり入れる必要があるだろうか。

空気(酸素) 食べ物 水 日光(温度)

呼吸 (口はな、気管、肺)

消化 (口、食道、胃、小腸、大腸、肛門)

課題 ご飯がロの中に入った液とまざるとうなるか。

予想

- あまなつて、あまおいくない。
- とけて、液体になつた。
- とろとろになつて、とけた。

とけて → あまいものに分解される。
($\text{C}_6\text{H}_{12}\text{O}_6$ × H_2O → 別物に変わる。)

まとめ 実験の結果をもとにまとめ

結果

- ヨウ素液を入れたときの変化

だ液 ⑦
水 ①

実験の結果を整理

実験の手順 ヨウ素液でデンプンがあるかないかを調べる。

- ① 容器をのぼす
スライドガラスに、ご飯つぶ2分の1を乗せ、わりばしで先でつぶしてのぼす。【図1】
- ② ほど深し水を加える
一方では水、もう一方ではヨウ素液、別々のストローで加える。【図2】
- ③ 実験を始める
カップに約4.5℃の湯をこぼれるぎりぎりまで入れ、スライドガラスを乗せる。【図3】
- ④ ヨウ素液をかけ比較する
5分間、それぞれのスライドガラスにスライドで立てきすつヨウ素液をかけて、色の違いを比べる。
結果?

安全上の注意
① やけどしないようにお湯に注意
② スライドガラスの扱いに気を付ける。(手を切らないように)

35℃~45℃ 人の体温

予想と実験の結果等を比較した振り返り

板書の構造化 例(道徳)

千歳小 朝倉 香代 教諭

振り返り

みんなが反対する中、ぼくは、なぜ地図係の石井さんの意見を信じたのか。一人で本で調べるすがたを見たから。考えを信じたから。

ルール 地図の見方を調べていたから。いろんなことを知っているから 大丈夫。がんばっている姿がわかった。

みんなと話し合う
助け合う
まかせてみる

まとめ

課題

青山さん
班員 (班のみんな)

近い方! 右がい!

不安

石井さん
地図係
がんばる
自分の思いをうまく口にすることが苦手

ぼく
班のリーダー

遠回りでも大丈夫!

まかせてみようよ!

教材の内容をわかりやすく整理

めあて

意見や考え方がちがう仲間と
みとめ合う方法を考えよう

仲間を信じて

単元等のまとまりを見通した学びの実現

- 「主体的・対話的で深い学び」は、1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではなく、単元や題材のまとまりの中で、
 - ・主体的に学習を見通し振り返る場面
 - ・グループなどで対話する場面
 - ・子どもが考える場面と教員が教える場面をどこに設定し、どのように組み立てるか、といった視点で実現されていくことが求められています。
- 単元のめあてを子どもと共有し、言語活動の目的を明確にすることで、子どもが単元を通じて課題意識をもち続け、学びに向かう力を高められるようにすることをねらいます。

単元(題材)のまとめりを見通した学びの実現に向けて

単元の ねらい

- ねらいは、教師の立場で書くものです。
- A：学習内容（～を、～について）、B：学習活動（○○を通して、○○でまとめて、○○と比べて、C：育成する資質・能力（△△できるようにする、△△に気付かせる、△△を高める）。*A、B、Cの三つの要素を入れます。
- 評価規準は「ねらい」との整合性をもたせて設定します。

単元の めあて

- 「ねらい」を児童生徒の立場で示したものです。
- 具体的には、付けたい力を身に付けさせるための、目指す「活動のゴールの姿」や「ゴールとそれまでの道筋」を示します。
- 具体的な評価規準が設定できていないと、「めあて」が曖昧なものになります。
- 学習の見通しをもたせ、意欲を高めるものになるように工夫しましょう。

指導に 当たって

- 子どもが、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう学習の過程を重視します。
- 子どもが学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を、単元の冒頭・終末だけでなく、計画的に取り入れるように工夫します。
- 主体的に挑戦してみることや多様な他者と協働することの重要性などを実感しながら理解することができるよう、各教科等の特質に応じた体験活動を重視します。
- 子どもが自ら学習課題や学習活動を選択する機会を設けるなど、子どもの興味・関心を生かした自主的、自発的な学習が促されるよう工夫します。

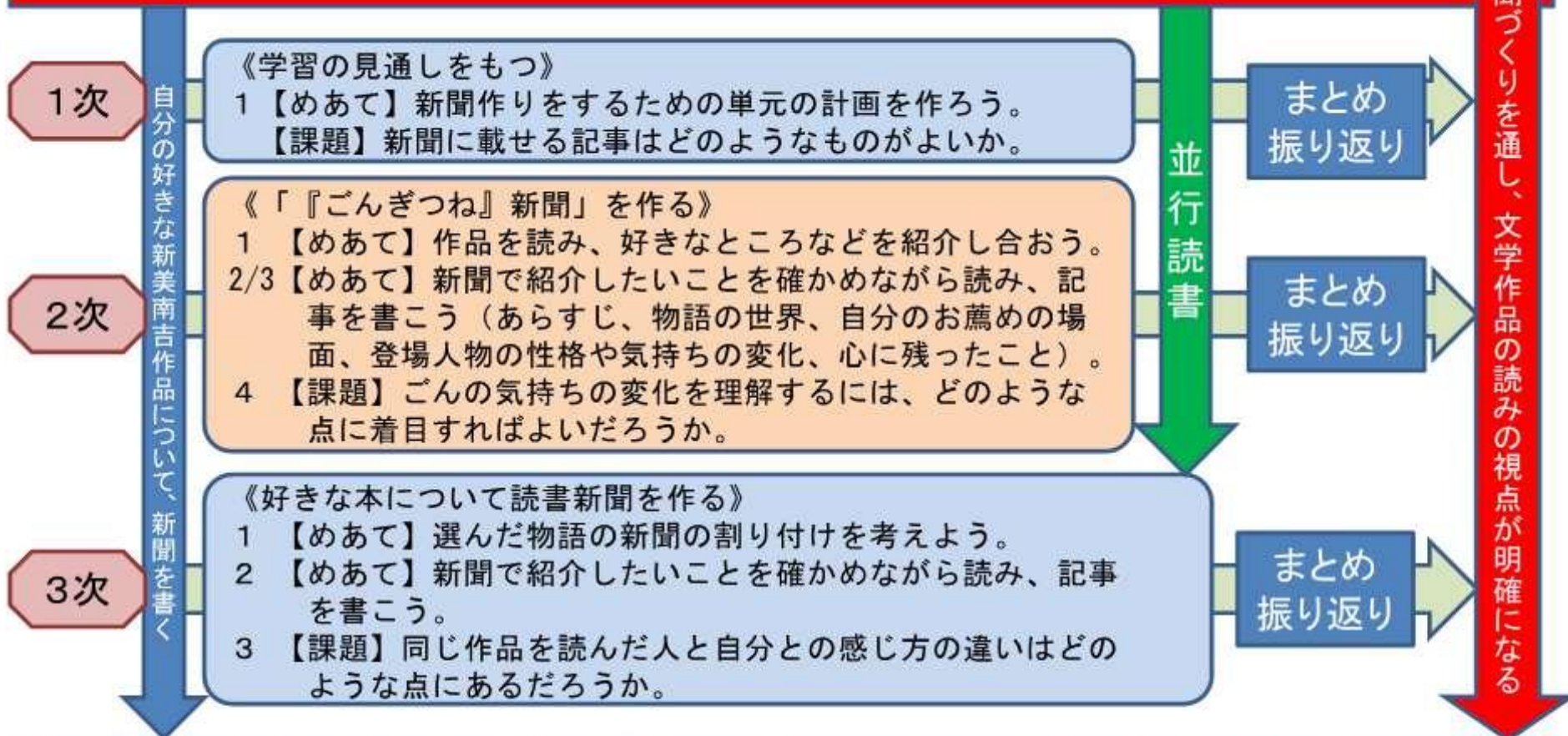
単元の 振り返り

- 学びの成果を実感させ、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげられるよう視点を設けましょう。その際、キーワードや学習用語を用いる等の条件を設定して学びを振り返らせるなどの工夫をしましょう。

小学校国語科単元計画例【第4学年：読むこと】

【単元のねらい】登場人物の人物像や気持ちの変化、描写の特徴等について、それらを新聞記事にまとめることを通して、叙述を基に想像を広げて読む力を高める

【単元のめあて】お気に入りの新美南吉作品を「〇〇新聞」にまとめよう



【単元の振り返り】(記述例) 作品の魅力を紹介するには印象的な場面を見つけたり、引用したりすることが重要であることが分かった。また、登場人物の気持ちは言動から分かった。また、同じ作品でも人によって感じ方が違うので、これからも人の感想を参考にしていきたいと思った。

小学校算数科単元計画(例)【第6学年:分数のかけ算】

【単元のねらい】分数の乗法について、整数や小数の乗法の計算に関連付けることを通して、分数の乗法の意味や計算の仕方を理解し、用いることができるようにする。

【単元のめあて】分数のかけ算の意味や計算の仕方を理解し、用いることができるようになる。

1時	【めあて】分数の計算の復習をしよう。○レディネステストを行う。○分数の加法、減法の復習をする。			振り返り
2時	【課題】 $4/5 \times 2/3$ という式になるのはなぜか。	【活動】「言葉の式」「簡単な数字」「数直線」で立式の理由を考える。	【まとめ】1あたりの大きさが $4/5$ で、その $2/3$ 倍を求めると、式は $4/5 \times 2/3$ になる。	振り返り
3時	【課題】分数に分数をかける計算はどのようにすればよいか。	【活動】「数直線図」「習った形への式の変形」を使って考える。	【まとめ】分数 \times 分数は、分母どうし、分子どうしをかければよい。	振り返り
4時	【課題】「最後まで計算して約分」と「計算途中で約分」のどちらがよい方法といえるか。	【活動】「もし数が大きくなったら」「分数 \times 整数のときも」というように2つの解法を比較して検討する。	【まとめ】分数 \times 分数は「計算の途中で約分」したほうが数が大きくならずに正確に計算できる。	振り返り
5時	【課題】整数 \times 分数はどのように計算すればよいか。	【活動】整数の8をどのように表せばよいか考える。	【まとめ】整数を $○/1$ と分数の形にして、分数 \times 分数として計算すればよい。	振り返り
6時	【めあて】分数のかけ算ができるようになる。練習問題			振り返り
7時	【課題】辺の長さが分数のときも、面積の公式は使えるのか。	【活動】図を使い $1/28\text{m}^2$ の15こ分なので、面積は $15/28\text{m}^2$ になることをグループで考える。	【まとめ】辺の長さが分数のときも、面積や体積の公式を使うことができる。	振り返り
8時	【課題】帯分数 \times 帯分数は、 \textcircled{a} (帯分数を仮分数にして)か、 \textcircled{b} (整数 \cdot 分数に分けて)か。	【活動】図を使い、 \textcircled{a} の方法では「たりない部分がある」こと、すべての面積は \textcircled{b} の答えと同じことを考える。	【まとめ】帯分数 \times 帯分数は、帯分数を仮分数にして計算する。	振り返り
9時	【課題】「かけられる数」「かける数」「積」にはどんな関係があるか。	【活動】1mの値段が200円のリボンの、 1 と $2/5\text{m}$ 分の代金、 $3/5\text{m}$ 分の代金を比べる。	【まとめ】かける数 >1 なら積 $>$ かけられる数。 かける数 $=1$ なら積 $=$ かけられる数 かける数 <1 なら積 $<$ かけられる数	振り返り
10時	【課題】計算のきまりは分数でも成り立つか。	【活動】面積図をもとに、分配法則についてきまりが成り立つかを考える。	【まとめ】整数や小数のときに成り立つ計算のきまりは、分数のかけ算でも成り立つ。	振り返り
11時	【めあて】分数のかけ算のまとめをしよう。まとめの問題			振り返り

【単元の振り返り】「分数 \times 分数はどのように計算するのかな」を問い、分数の計算の方法を振り返る。
(児童の記述の例)分数 \times 分数は分母どうし、分子どうしをかければよい \rightarrow わり算の計算にも使えるのかな。

中学校社会科単元計画【地理的分野：九州地方】

【単元のねらい】九州地方の地域的特色について、環境問題や環境保全を産業や地域の動向、人々の生活などと関連づけて考察し、持続可能な社会の構築のためには、地域における環境保全の取組が大切であることをとらえさせる。

【単元のめあて】九州地方の特色を環境面に着目して地図にまとめよう。

【単元の課題】九州地方では環境に関して、どのような取組が見られるか。また、なぜそのような取組が行われているのか。

1時

【課題】九州地方の自然環境にはどのような特色があるか。

【活動】自然環境の特色を地図や雨温図・写真等で他の地域と比較して読み取る。

【まとめ】九州地方は火山が多く、火山灰が厚く堆積している地域が見られる。また、比較的、温暖で台風などの自然災害が多い。

2時

【課題】九州地方の人口や産業にはどのような特色があるか。

【活動】人口や産業の特色をグラフや主題図・写真等で空間的・時間的に比較して読み取る。

【まとめ】福岡県を中心に九州北部に人口は集中している。農業は南部で促成栽培を行った畑作が中心となっている。工業では近年、ICや自動車産業への転換が進んでいる。

3時

【課題】九州地方では、自然環境の保全のためにどのような取組が行われているか。

【活動】自然環境の保全と開発のバランスについて人々の営みと関連付ける。

【まとめ】集中豪雨に備えて砂防ダム建設をしたり、沖縄ではサンゴ礁を守りながらの地域開発が進んでいる。

4時

【課題】水俣市や福岡市では、工業化や都市化がもたらした環境問題に対してどのように向き合ってきたか。

【活動】教科書のコラムや写真から各都市の時間的な変化の様子を比較し、そのための対応策を人々の営みと関連付ける。

【まとめ】水俣市では、公害を乗り越え、環境モデル都市として世界に情報を発信している。福岡市では、緑化運動を進めるなど都市化による災害に対する取組を進めている。

5時

【課題】北九州では環境問題を受けて、どのような社会を目指した取組が行われているか。

【活動】写真やグラフなどで環境の変化に着目し、北九州市の取組と関連付ける。

【まとめ】北九州市では廃棄物をリサイクルするエコタウンが形成され、持続可能な社会を目指す取組が行われている。

【単元のまとめ】九州地方の人々は、環境問題や環境保全を地域開発に関連付け、砂防ダム建設や防災マップの作成や水俣市や北九州市に見られる街づくりの取組などを行っている。それは、持続可能な社会の構築のためである。

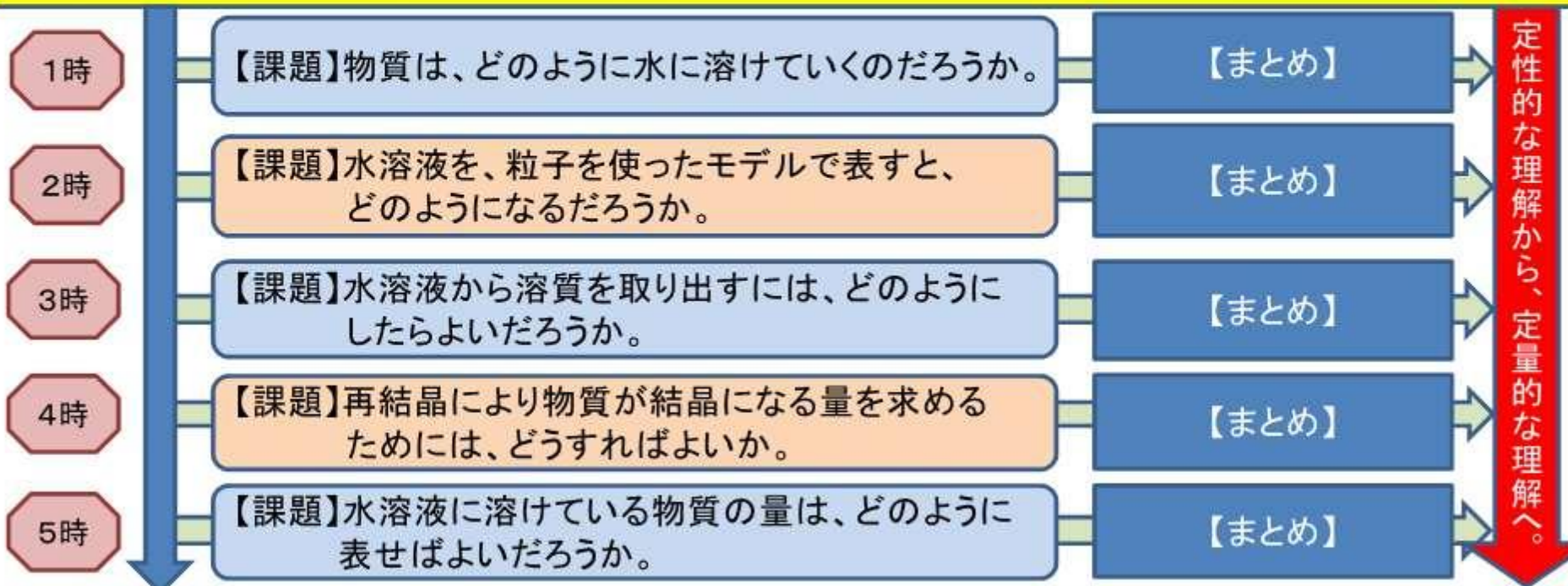
6時

【単元の振り返り】(視点)1時間ごとに九州地方の白地図に記入した特色や取組をもとに持続可能な社会を構築するために自分ができることを考え振り返りとする。

【単元のねらい】

物質が水に溶けるときの様子を観察したり、一定量の水に溶ける量について調べることを通して、物質が水に溶けるときには、水の粒子の間にその物質の粒子がばらばらに散らばって水溶液全体に均一に広がることを見出したり、水溶液に溶けている物質の量の割合の表し方や一度溶けた物質を水溶液から取り出す方法を理解したりすることができるようにする。

【単元のめあて】 物質が水に溶ける様子や溶ける量について調べよう。



【単元の振り返り】

- 水に溶けた物質が水溶液中に均一に散らばっている様子を粒子モデルを使って振り返る。
- 水溶液に溶けている物質の量を表す方法と一度溶けた物質を再び取り出す方法について振り返る。
- どのように調べ、まとめたかといった学びの過程について振り返る。

中学校英語科単元計画(例)【第1学年】

【単元のねらい】観光地などを案内する活動を通して、ごく身近な事柄について、事実や自分の気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて短く話すことができるようにする。

【単元のめあて】日本に来た外国人に、「日本に来て良かった」と感じてもらえるように、あなたが考える私たちの町の魅力を英語で紹介できるようになろう。(8時間扱い)

1
次

【めあて】英語で観光地を案内できるようになろう。(単元の見直しをもつ)
○どんな観光地に行ったことがある? ○canを用いた文構造を知る。
○教科書本文から町や観光地を案内する時に使われる表現を探す。

振り返り

2
次

【めあて】「～できる。」「～できますか?」と言えるようになろう。
○canを用いた文の構造を知る。○教科書本文を通して、canを用いた疑問文の使い方を理解する。○canを用いた文を使えるように練習する。

文法の整理
振り返り

【めあて】ペアで観光地を案内し合おう。
○ペアになり、「この場所では、～できる。」と英語で伝える。

振り返り

【めあて】「いつ～しますか?」と言えるようになろう。
○疑問詞whenを用いた文の構造を知る。○教科書本文を通して、whenの使い方を理解する。○whenを用いた文を使えるように練習する。

文法の整理
振り返り

【めあて】ペアで観光地について尋ね合おう。
○ペアになり、一つの観光地について英語で質問・応答をする。

振り返り

3
次

【めあて】観光地を案内する時の表現を使えるようになろう。
○教科書で使われている案内する時に使われる表現をまとめる。○ペアで町や観光地を案内し合う。○グループで町や観光地を案内し合う。

文法の整理
振り返り

【めあて】ペアで町や観光地について別のペアに紹介しよう。
○バスで観光地を巡っている場面を想定して、紹介する場所や相手を変えながら他の生徒と自由に案内し合う。

振り返り

【単元の振り返り】canやwhenを適切に用いて、町や観光地を案内しよう。(パフォーマンステスト)
○教師に対して町や観光地2か所を案内する内容のテスト ○観光地の写真を2枚見せて、10秒程度考える時間を与えた後、その場所を教師に対して案内させる。※写真は初見であるが、生徒がよく知るものを用いる。



新大分スタンダード

新大分スタンダードで
主体的・対話的で深い学びを！

「学びに向かう力」と思考力・判断力・表現力を育成するワンランク上の授業

1 1時間完結型

「主体的な学び」を促す「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」

- *学習の見通しをもたせ、意欲を高める「めあて」
- *学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる「振り返り」
- *追究すべき事柄を明確にする「課題」、追究した結果を明確にする「まとめ」

2 板書の構造化

*思考を整理したり促したりする板書、思考の過程を振り返ることができる板書

3 習熟の程度に応じた指導

- *「具体的な評価規準」に基づく確かな見取り
- *「努力を要する状況」の児童生徒に対する手立ての工夫



安心して学べる「学びに向かう学習集団」

4 生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開

主体的・対話的で深い学びを創造する学習展開

各教科の見方・考え方を働かせて展開する「課題設定⇒情報収集⇒整理分析⇒まとめ・発信・交流⇒振り返り・評価」等の学習過程の中で行われる

- *問いの発見・解決、自己の考えの形成・表現、思いに基づく構想・創造
- *様々な人との対話・協働による自分の考えの深化・拡充